

中山間地域と里山の持続性に 貢献する農林業DX

参加
無料一般
参加
可能

我が国の農林水産業の衰退が加速している。その要因を人口減少に求める向きもある一方で、農林水産省の推計¹⁾によると、ライフスタイルや食生活の多様化による1人当たりの食料支出の伸びが人口減少を相殺し、2040年の食料支出総額は2015年の値を維持するとの見方もある。このことは、多様化する日本人の食ニーズにフレキシブルに対応する農業生産システムの維持・強化が必要であることを意味する。中山間地域の中小規模農業生産は、我が国の農業生産全体の約4割を占めており、まさに、多様化する食ニーズに応える希少で高付加価値の農産物の生産を担うものとして維持・強化されるべきである。また、中山間地域の農業は、それを内包する里山で暮らす人々によって営まれている。このことは、里山を念頭においた地域社会の維持と中山間地域の農業生産力の維持は、一体のものとして議論すべきであることを示唆する。本シンポジウムでは、デジタル化技術を駆使した中山間地域の小規模スマート施設園芸（植物生体情報計測に基づいた高付加価値農産物生産）による地域活性化とデジタル化された森林計測に基づいた里山の維持管理の現状を紹介するとともに、デジタル化による中山間地域と里山の持続的発展を展望する。

1) 我が国の食料消費の将来推計(2019年版)、農林水産省(令和元年8月30日)

オンライン
ハイブリッド開催

日時 令和6年6月29日土 15:30~17:30

場所 愛媛大学農学部 大講義室 (愛媛県松山市樽味3丁目5-7)

問い合わせ先 愛媛大学農学部緑化環境工学研究室(担当:松田) ☎ 089-946-9850 E-mail:pd@agr.ehime-u.ac.jp

申込みフォームURL <https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~sympo1/mpmailec/form.cgi>



次第

総合司会：羽藤堅治(生態工学会 中四国支部長、愛媛大学 地域協働担当副学長、愛媛大学大学院農学研究科 教授)

15:30 **開会の挨拶** 船田良(生態工学会長、東京農工大学大学院農学研究院 教授)

15:35 **シンポジウムの開催趣旨**
高山弘太郎(豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授、愛媛大学大学院農学研究科 教授)

第一部 DXで強くなる中山間地域の高付加価値農業生産

15:40 **「トライアングルエヒメ推進事業における農業DXの取り組み」**
高岡晃仁(愛媛県企画振興部 デジタル戦略局長)

15:50 **「施設園芸を強くする最新スピーキングプラントアプローチ(SPA)」**
高山弘太郎(豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授、愛媛大学大学院農学研究科 教授)

16:05 **「ストロング・ミニマム園芸を支えるDX～施設園芸と柑橘～」**
藤内直道(愛媛大学大学院農学研究科 助教)

第二部 中山間地域の維持に不可欠な里山のDX

16:25 **「里山を構成する森林を対象としたデジタル計測」**
都築勇人(愛媛大学大学院農学研究科 准教授)

16:45 **「科学的知見に基づいた森林保全を通じた里山の維持」**
鍋嶋絵里(愛媛大学大学院農学研究科 准教授)

17:05 **「森林教育のDXと森林・林業GX・SX担い手育成」**
小林修(愛媛大学国際連携推進機構 教授、SDGs推進室 副室長)

17:25 **閉会の挨拶** 仁科弘重(愛媛大学長)

17:30 **閉会**

主催：生態工学会、愛媛大学

後援：豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター、日本生物環境工学会 東海・四国支部、日本生物環境工学会生物生体計測部会、「知」の集積と活用場産学官連携協議会 スマート・メガスケール植物工場研究開発プラットフォーム、CIGR(国際農業工学会) Plant factory and intelligent greenhouse WG、愛媛大学研究協力会スマート農業研究部会、農業情報学会施設生産部会、伊予銀行、愛媛県